

○議長（前原英石） ただいまの出席議員数は7人です。定足数に達していますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

竹島貴行議員。

○6番（竹島貴行） 6番竹島貴行です。私は、通告しております高齢者福祉に関して質問をさせていただきます。

舟橋村では、令和6年3月に遡って、「地域で支え合い、高齢者が健康でいきいきと暮らせるむらづくり」という概念を掲げた高齢者保健福祉計画をつくりました。この計画は令和6年度から令和8年度に村が取り組む計画となっていますが、計画が埋もれることのないよう、そして村民の皆さんに、村は高齢者にも目を向けて福祉計画を作成し行政対応していることに少しでも関心を持っていただきたいと考えています。

私自身、この計画策定に少々関与させていただき、うれしく感じた点を紹介させていただきます。

これまでであれば、計画骨子作成を業者に丸投げし、業者が作成した計画を策定委員会に配布され、数回開かれるだけの委員会で計画が承認され、計画が決まってきました。しかし、今回は担当職員たちが自ら計画骨子をつくり上げたと聞きました。計画作成を業者に任せるのと、職員自ら舟橋村の実態を考慮し、つくる計画では、必然的に職員の仕事の質や仕事に向き合うモチベーションが異なると思います。そして、計画自体に舟橋村を実感でき、策定委員として中身をしっかりと拝見して、担当職員たちと有意義な打合せにより、福祉計画ができたことをうれしく感じています。

このことから、この計画が村民に寄り添う福祉サービスとして展開されることを期待するものです。また、これは村長が目指す役場の組織改革の効果につながるのではないかと期待します。あわせて、社会福祉協議会の広報や各種福祉団体の皆さんの取組についても関心を持って見るようになり、皆さんが舟橋村の福祉に一生懸命貢献されている姿を感じ、うれしさと感謝の気持ちを大きくしております。

その上で、今回は質問を高齢者福祉について取り上げさせていただき、福祉行政がさらなる前進に結びつくことを期待し、村長の見解を問いたいと考えております。

先般、メディアで報道されたことに目を留めました。それは、自宅で亡くなった独り暮らしの人が今年の上半期に全国で計3万7,227人、暫定値ですが、いたことが分かったと警察庁が8月28日に発表し、65歳以上の高齢者は2万8,330人で、全体の8割近くを占めたそうです。

また、政府は孤独死、孤立死の実態把握を進めており、今年から公表を始めたことも報道されました。そして、都道府県別に見ると、死者のうち65歳以上の割合が最も高かったのが富山県で86.2%、徳島県82.3%、奈良県82.1%が続き、最も低かったのは沖縄県で68.8%だったというショッキングなものでした。富山県にある舟橋村として、この公表事実を真摯に受け止めて、高齢者問題に向き合っていく必要があると考えました。

内閣府は、令和3年版高齢社会白書で、65歳以上の人口に占める独り暮らしの割合が、2015年時点で男性が約192万人、女性が約400万人だと公表しています。1980年時点では、男性約19万人、女性が69万人だったそうで、年々少子高齢化が顕著に進行している実態が浮かび上がっています。また、2040年には、65歳以上の独り暮らしの割合は、男性20.8%、女性が24.5%まで増加すると推計されているそうです。そして、今後、この傾向が加速度的に増加していくことは明らかであり、舟橋村においても、地方創生や地域福祉の観点から重要な問題ではないかと私は考えています。

舟橋村は子育てに手厚い支援があり、若い世代にとって住みよい村というよいイメージで語られることもあり、そればかりではなく、村民に高齢者や病気を患った人、障害を持った人たちもいらっしゃることを認識したいと思います。その人たちにとっても舟橋村は住みよい村となるよう、村づくりに邁進しなければならないと考えており、私は村長のこの考えを共有したいと考えています。

そこで、村の現状を認識するため、質問します。

1つ、舟橋村で独り暮らしの状況は、直近でどうなっているのか。

2つ目、独り暮らしの人の中で、高齢者、病を患っている方、障害を持った方はどれだけいらっしゃるのでしょうか。

3つ目、見守り対象とされている方は、どれだけいらっしゃるのでしょうか。また、見守り基準はあるのでしょうか。

4つ目、見守り方法や内容は、どう行われているのか。

5つ目、見守りを委託している場合、村はどのように実態を把握し、どのようにフォローされているのか。

6つ目、災害等の非常時に、独り暮らしの方々にどのような支援体制を村として考えているのか。

7つ目、独り暮らしの高齢者にとって、老齢化は、体が思うように動かなくなり、ひきこもりや地域での孤立化、ごみ屋敷化、貧困化、そして健康問題など、想定できる問題が多々あります。村としてこれらにどう向き合うのか、考えをお聞きます。

最後に、8つ目として、高齢者の熱中症を防ぎたいということで、クーリングシェルターという名目で施設の開放や一部高齢者に温湿度計を配付されました。暑さもピークを越えた今、これらの事業において成果をどう評価されているのかをお聞きます。

以上、よろしくお願いします。

○議長（前原英石） 田中生活環境課長。

○生活環境課長（田中 勝） 6番竹島議員の高齢者福祉についての質問にお答えいたします。

1から順番にお答えさせていただきます。

1について、村内の独り暮らし世帯は、9月1日現在、住基上151世帯でございます。その中でも居住実態がなかったり、逆に住所はあるが、実質独り暮らしの方もおられるので正確ではないかもしれませんことをご留意ください、お願いいたします。

2、その中で65歳以上の高齢者の独り暮らしは63世帯でございます。病を患っている方は把握しておりません。障害者は8世帯と把握しております。

今年度、議員ご指摘の7月から8月にかけて、熱中症予防対策事業として、高齢者の独り暮らしの方々を対象に、温湿度計について、民生委員さんを中心に配布し、見守り確認を行ってございます。

3について、見守り対象となる基準はなく、舟橋村の災害時要支援者台帳においての対象者は、独り暮らし高齢者（65歳以上）の世帯、高齢者（75歳以上）のみの世帯、要介護認定者世帯、障害者（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者手帳を有する人、障害福祉サービス受給者）世帯、難病者（特定疾患受給者証を有する人）、医療的ケア児世帯です。

ふだんから地域で見守りなど行っているのは、65歳以上の独り暮らし世帯や75歳以上のみの世帯等でございます。その見守りも、本人の同意を取る等、当事者の希望をかなえる形で行っております。

4番については、民生委員や民生委員協力員による訪問、ケアネットメンバーによる見守り活動、ケアマネジャーや地域包括支援センターによる訪問等、見守り方法は多様でございます。

ハード面では、緊急通報装置を設置し見守る等、方法は対象者の希望に沿う形で行っております。

5、村としては、訪問記録を見ながら、地域包括支援センターと話し合い、必要な関係機関やサービスにつなげます。場合によっては、介護保険申請を勧めております。65歳以上の独り暮らしの方のみですが、年に1回は地域ケア会議でケース検討を行っております。

6番、災害時要支援者台帳を参考に、各地区の自治会長や見守り担当の方が、自分の身の安全を確保した上で、電話などで安否確認や避難行動を促すなどの対応を行う予定としております。

私のほうからは以上でございます。

○議長（前原英石） 渡辺村長。

○村長（渡辺 光） 続きまして、6番竹島議員の高齢者福祉について、7、8についてお答えをさせていただきます。

7につきまして、今ほど明示いただきましたひきこもり化、孤立化、ごみ屋敷化、貧困化、健康問題等々に対しては、明確にこれというものを実施すればすなわち解決するという手だては大変難しく感じております。現在は、地域から課題として上がってきたときなどに対応を都度考え、事業化していきながら進めております。

一例を申し上げますと、地域包括支援センター等で行う地域ケア会議で、ごみ捨てが難しいという地域からの課題として取り上げられた際には、その地区の集まりの方々に対し、ごみ出しのボランティアをお声がけさせていただきました。そのところ、地域でごみ出しを協力する、そういった仕組みが立ち上がりました。このごみ出しが難しいという課題を解消すると同時に、地域の定期的な見守りにもつながるという大変好事例にもつながったと認識しております。

このような形で、その地域の住民の方々同士での課題を解決できる仕組みづくり、そして同時に、その支援を村としては行っていくことが重要だと認識しております。

8についてですが、今年度は独り暮らしの高齢者を対象とした熱中症予防対策事業として、6月1日現在、65歳以上の独り暮らし世帯のうち、総数として54名に対しまして、温湿度計の配布を行いました。

配布につきましては、民生委員の方々が中心となって戸別訪問を行い、使い方の説明、熱中症対策についての注意喚起を実施いたしました。おおむねの方々はエアコンを上手

に使用して熱中症の対策、対応をしておられましたが、エアコンを設置していない方に対しましても、未設置理由を確認し、重ねて注意喚起を行いました。

また、その際には、村内においてクーリングシェルターを3か所で開放していることをお伝えすることができました。クーリングシェルターにつきましては、本年度は熱中症特別警戒アラートの発出はなく、運用においては、クーリングシェルターの開放は行わなくてもよいという状況ではありましたが、それでも舟橋会館に3名の利用があったと報告を受けております。

成果の評価につきましては、一つの目安にはなってしまいますが、熱中症での救急搬送要請件数になるかと思えます。65歳以上の要請、こちらの数字に関しましては、独り暮らしか否かというところは不明ではありますが、昨年度は4件に対し、本年度は0件でありました。

この数値となった要因がクーリングシェルター及び温湿度計の配布によってとは言い難いため、あくまでも参考値として受け止めていただければと存じます。

一方、各論としての評価になりますが、現時点において、温湿度計の利用状況、使用状況などは調査ができておりません。

しかしながら、温湿度計の数値を目安にすることの大切さの周知であったり、そういったことを、配布の際には一定程度できていたというふうに感じております。

以上、クーリングシェルター及び温湿度計配布事業に対しての評価の答弁とさせていただきます。

○議長（前原英石） 竹島貴行議員。

○6番（竹島貴行） 答弁のほう、ありがとうございました。実態がよく分かったような気がいたします。

しかし、そこで私が申し上げたかったのは、今後、少子高齢化が進展していくに当たり、この弊害というか、それが顕著に出てくるんだろうと思います。

今回の質問で高齢者福祉を取り上げましたが、福祉は形式にとらわれず、人が人を支える行為だと私は思っています。ですから、非常に重い仕事、この仕事に従事されている方たちのご苦労というものを私は実感するわけであります。

ネットを見ていると、富山県の、2023年度になりますが、住みよい街ランキングというものが出てきます。このランキングに舟橋村は出てまいりません。多分出てこないのも理解はできますが、私はデータをうのみにするのではなく、舟橋村というこの

村を非常に誇りに思っている次第であります。

これから村民一人一人が感じていくであろうウェルビーイング。県知事も掲げておられますが、これについては、人それぞれ感じ方、考え方が異なります。そのことを尊重した上で、行政の施策も進めていかなければならない。

それから、舟橋村は、ほかの町や市と違って、資源というものがあまりないところがあります。誇れるとすれば、人材資源、人的資源だと私は思っております。

今後も舟橋村が若いも若きも住んでよかったと思える村づくりの先頭に立って、村長には活躍していただきたいというふうに願っているわけですが、福祉の重さ、これはずっと今後出てくるんだろうと思いますが、関係団体、社会福祉協議会などの皆さんとともに、この問題について真摯に取り組んでいていただきたいと。私も自分の立場をわきまえながら協力できればと考えておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

最後に、この思いについて、村長にどういうふうにお感じになっておられるかお聞きして、私の質問を締めたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（前原英石） 渡辺村長。

○村長（渡辺 光） 今ほどの竹島議員の再質問に答弁をさせていただきます。

竹島議員の高齢者福祉に対する思いの強さというものを大変ひしひしと感じさせていただきました。

舟橋村は、現時点においては、まだまだその高齢化率というのは20％付近を推移する大変数値としては低い自治体ではありますが、20年後においては高齢化が顕著に現れてくる。そういった時期に差ししかかっていると思います。すなわち、2040年代には舟橋村は人口が減少に転化し、そして高齢化が著しく始まる。そういった時期になると予見しております。

私自身、もちろん少子化に対しては様々な手だてを考え、これから進めていくという強い思いも持ちながら、多くの村民の皆さんにも選ばれる村として、高齢化に対しても、すなわち高齢化福祉に対してもしっかりと進めてまいりたいと考えておるところは、議員の皆様にも深く理解をいただきたいと思います。

その上で、私自身、なかなか届いていないお声、救い切れないお声があるというふうな認識も持っておりますので、議員各位におかれましては、そういった方面でまた村当局へのご協力をいただきたいということをお願い申し上げまして、私の答弁とさせていただきます。

ただきます。